救急医療用ヘリコプター離発着場が琉大構内に
患者搬送訓練を実施

琉球大学千原キャンパス構内に、医療用航空機（メッシュおよび沖縄県ドクターヘリ）離発着地点が新たに設定され、平成２８年１０月１９日（水）、患者搬送訓練が行われました。

沖縄本島北部地域は農作業中の事故や交通事故等の救急患者が多発する地域であるにもかかわらず、診療所や医師不足が深刻な状況です。そのような医療状況を改善するため、これまでメッシュは本島北部や本島に近い離島を中心に活躍してきました。中南部においては、与那原町近海周辺に離発着地点がありましたが、今回琉球大学構内にも出来たことにより、より迅速な医療機関への搬送が可能になりました。

訓練は、国頭地区で５０代男性が作業中に機械に巻き込まれ、右前腕不全断裂する事故が発生したとの沖縄県消防通信指令センターより出動要請を受け、東部消防組合、本学医学部附属病院の連携の下、救急搬送を行うという想定の下で行われました。まず東部消防救急隊は附属病院救急部医師を附属病院（上原キャンパス）でピックアップし、その後ランデブーポイント（離発着場／千原キャンパス北側広場）にて、メッシュクルーと連携し、患者引継ぎから附属病院救急部までの搬送を行いました。

訓練は無事終了し、メッシュサポートスタッフ、東部消防職員、附属病院医師らによる今回の訓練に対する見直しがなされました。附属病院救急部の玉城医師は「実際に訓練を行ってみると、想定していなかった建物のアンテナによる着陸態勢の変更や、ヘリから救急車への移動時には段差や芝生のぬかるみ等の地形に対する気づきがあった。今後は各離島や北部地域などで救急患者が発生した際にこの離発着地点を活用することで、迅速に琉大病院で専門的な治療を行うことができるようになる。我々はその責務を果たしていきたい。」と話していました。

救急車が到着

ヘリコプターの着陸に合わせてスタンバイ

訓練の様子

インタビューに答える玉城医師